

所沢市長賞

税に期待すること

埼玉県立芸術総合高等学校一年

千葉 彩 加

三月十一日に起きた東日本大震災、今なおたくさんの人たちが厳しい避難生活をいられています。テレビで見ると、海岸沿いの津波で流された地域は、想像以上に跡形もなく、あるテレビ局のリポーターは、それはまるで戦後の焼け野原の後のようだと例えていました。これからの、先の見えない生活に、そこで生活をしてきた人々は、今、何を思っているのだろうかと考えると、少しでも早くみんなの力で生活の場を整えてあげたいと願うばかりです。

この震災復興のためには、資金面でも本当に多くのお金が必要であり、マスコミでも毎日のように取り上げられています。私はこのような時にこそ、本当に必要な人たちのために、必要な場所に税金が使われ、そのためにすぐに増税が必要であるならば国民一人一人が協力し合い、この苦しい不幸な出来事を皆で共有していくべきではないかと考えます。

昨年の中学三年生の時にも税についての作文を書きました。丁度スウェーデンの税についてテレビで放送していたこともあり、それまで税についてあまり分からなかった私も少しですが理解出来たように思います。ここで私は、スウェーデンの税について思い出してみることになりました。スウェーデンでは、国民が二十五パーセントもの消費税を支払っても手厚い保障制度があるために不満もなく、国

民は政府を信用しているといえます。人口が少ないために、皆で働く、誰もが働ける社会を目指し、医療や介護、年金を充実させているからだそうです。例えば、教育面では無料で大学まで行くことが出来るのです。病気の人も手当てとして八十パーセントもお金をもらうことが出来、又、母子家庭でも十分生活出来るようになっていきます。特に女性が働くことを期待していて、子育て優遇制策をとり、育児休暇をとって休んでもその間八割の賃金が支給されます。このように消費税が高くて、国民一人一人に返ってくる援助がとても満足できるものなのです。国民の数が少なくても、夫婦で働ける援助制度を取り入れることで経済を豊かにしていくというスウェーデンの税への取り組み、仕組みはとても素晴らしいことだと改めて感じました。

では、日本の現状はどうでしょう。老後の生活や子育て、医療費、年金、就職などこれらへの不安を感じ、国の方針に多くの大人たちが不満を口にします。スウェーデンのように、後に自分に返ってくる保障が十分と感じられるならば、私たちは増税になったとしてもそれを受け入れることが出来ると考えます。

今日もテレビで仮設住宅のお年寄りの孤独死、震災自殺について放送していました。震災で全てを失った人たちの厳しい仮設住宅の中での生活を考えると、一刻も早く増税について議論され、元の生活を取り戻してあげてほしいと願っています。